

関係機関・団体長
病害虫防除員
農薬管理指導士

様

山口県病害虫防除所長

水稻の斑点米カメムシ類 (クモヘリカメムシ、アカシカメムシ、ホハリカメムシ等) の発生状況と
防除対策 (技術資料第 8 号) について

このことについて、下記のとおり送付しますので防除指導の参考にしてください。

記

1 発生状況

- (1) 定期巡回ほ場の内、8月中旬以降に出穂した49ほ場における20回すくい取り調査では、発生ほ場率は44.9%(平年26.5%)、虫数0.8頭(0.5頭) で平年に比べやや多く、種類別ではクモヘリカメムシ及びアカシカメムシが平年に比べ多かった(図)。
- (2) 7月21日～8月20日までの予察灯誘殺数(県内5か所) はアカシカメムシ、クモヘリカメムシともに平年に比べ多かった。

2 今後の予想

- (1) 発生地域 県内全域
(主に8月下旬以降に出穂したほ場：ヒノヒカリ、日本晴、中性新千本等中生品種)
- (2) 発生時期 出穂期以降
- (3) 発生程度 やや多

3 防除対策

- (1) 穂揃期を過ぎているほ場
 - ア 穂揃期に防除したほ場
発生状況を確認し、斑点米カメムシ類を確認した場合は、穂揃期7日後に再度防除する。
 - イ 穂揃期に防除していないほ場
早急に防除する。
- (2) 今後(現在) 穂揃期を迎えるほ場
穂揃期に防除する。また、防除後にほ場の状況を確認し、斑点米カメムシ類を確認した場合は、その7日後に再度防除する。

4 防除上注意すべき事項

- (1) 防除は出穂期後3週間以内に行う。
- (2) 斑点米カメムシ類の水田への移動を助長するので、出穂後3週間頃までの草刈りは避ける。
- (3) 畦畔や休耕田に出穂したイネ科雑草(エノコログサ、ヒエ、メヒシバ等) がある場合は本田と併せて防除すると効果が高い。

- (4) 斑点米カメムシ類は広範囲に移動するので、地域で一斉防除を行うと効果が高い。
- (5) 防除適期は穂揃期とその7日後であり、トビイロウンカの防除適期と重なる場合は混合剤による同時防除が可能である。

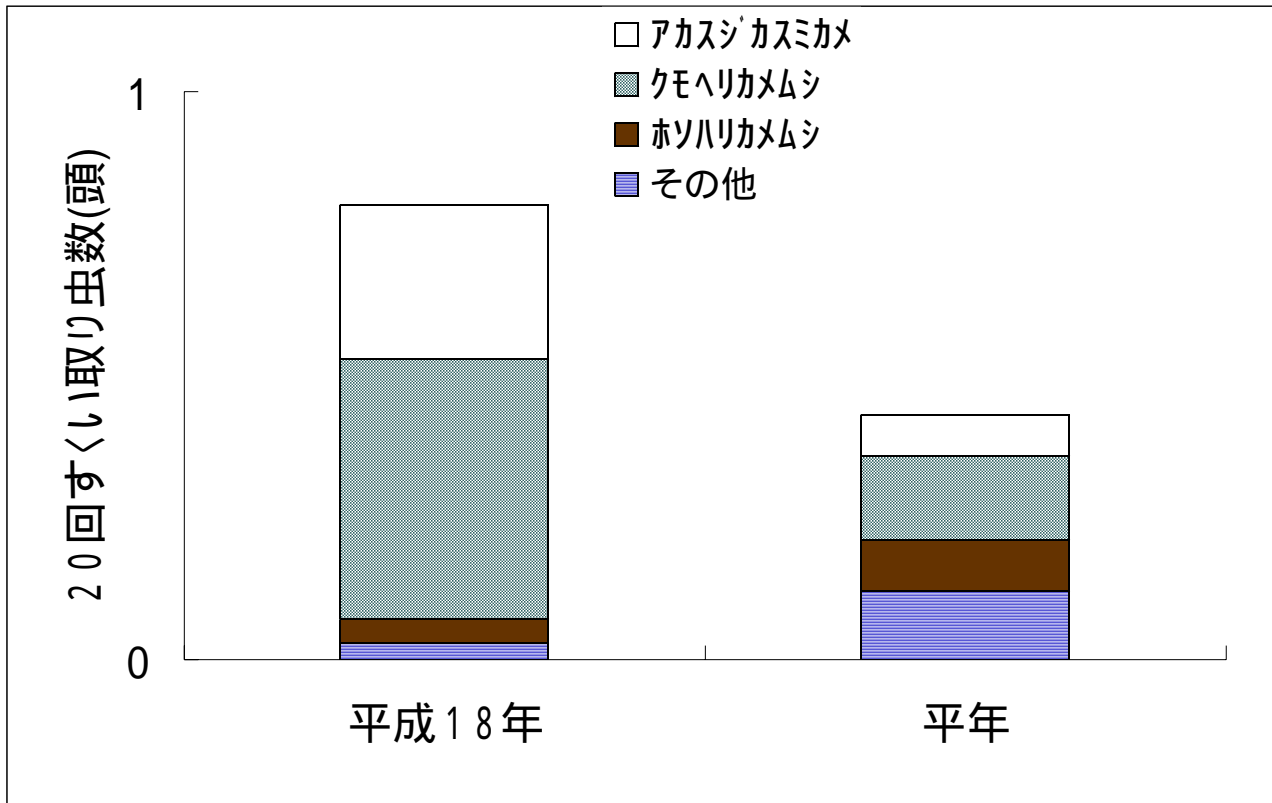


図 8月中旬以降に出穂したほ場における20回すくい取り調査

(参考)用語解説

出穂期とは、出穂すると思われる全茎数の40～50%が出穂した日。

穂揃期とは、出穂すると思われる全茎数の80～90%が出穂した日。